デニ十二日の食見でも事態 たので修我の主題は何等談 かつた、酒句、カズロフスキー剛たので修我の主題は何等談 かつた、酒句、カズロフスキー剛たい

カザケヴィッチ水道

船舶航行危險

將介石への

治廢と行政權調整

内定せる我根本方針

序は邪人に對する滅洲國の課稅権を認める如きものであると仄暇する

先づ低率課税を容認

坐洲せる満洲國軍艦養民に

妨害と威嚇を加ふ

對支政策强化か

ソ聯側標識用を爲さず

豫備會談當時から

歩も進展せず

英米最近のゼスチュアご

我外務當局の見解

英米提携の重壓に

日本不利に陷らん

強化と米側の観測

エチオピア側の

支那紙の我陸軍異動

昨日の定例閣議

のことがある

た。耐べるも耐へないもない。これでもと何んの検索をしたことがあ 本流で塗つたのよ」

であのがあなたのと云つてたわしてあのがあなたのと云つてたわし たどれ、 水むし、 रं, 股ずれ おてき 臓み傷

依然聯盟に信頼す

近く三黨首會合

岡田首相、協力を求む

決定せず

投票日公休案

君に握はない」に、あなたにいろんな女職像があるんたにいつか思、仰言る言葉なのね。あたしは、あるたとにいつか思、仰言る言葉なのね。あたしは、あ るたしはそれをぢつと耐るただいろんな女職保があ

夏の皮膚



民悲憤の訓示 当工武器輸出

| 月下旬南京において搭集すること 郷六中央勢行を政策を選集を選れた 六中全會

公正會幹事會

「申合せて十一時晩年

るものであつてはならない ものであつてはならない るものであつてはならない こ、エテオピアは郵荷的利権の相

「今日は熱があるんだから融つて 丁字街(141) よ。あれからあたし何 んなことで、あんたに侮辱された ずうな気がする。これがはかの 燃えてゐる心の類なの っるなたのな

マであらうと一笑に附してゐる

0

新

理

事

以上は州縣生脈の

欣 逃げる石本夫 ゝましやかに

内助の功もさてそ

漢ツ暗闇に電燈は輝く

佐藤邸女中の言

怪 死

哈市の怪事件

て、空間のベルを置いたの

親分 が配いと果てるたと

奈曼旗事件の詳報至る

虐殺が目的

些国の攻勢猛烈をきはむ

悲壯な同胞の最期

つて資ふと又逃げ出してしまった たが『陶製を交振るのか、家内だに覧いだ新田事石本氏も動を見せ

救出さる

最近一ヶ月間には熱河省側西方一家匪側に際し支那般に影響して脱ったる

人息子に

東京神田徐樂町ファ京直航好文堂

グ冷蔵庫 電話・四名

装飾美

第1 北書の総合語

悲敷益々増大

徳公黙の裏で射殺された、中根巡 殴り以入五十名を腕披したとけ戦死、山守嶽事宮は抄歌された。した肥脈は野に気影射近の駄埋駄一氏は膨出したが、追跡を受 の情報によれば奈曼康公警を

ろによれば、訓練的経長は発うじ

射殺された、既にその後

家人の留守に通帳を盗出し

十五少年

大膽、郵便局を騙る

なく次の事實が西隔場別便局で物一

持つた十五六歳の少年が現はれ
そんな大金は子供には渡せない

不審を描いた

大連市民に福音

保健所を新設

も一つ療病院の新築と

病院の擴張

に抵抗せんとする复構へと判断 連絡を被機し数兵漆を構築し防 道路を被機し数兵漆を構築し防

世洞を中心に自動車 | 野藤殿出現の藤川般市氏夫妻は| | 野藤田県の田県である。その他| | 野は石川殿の田県である。その他| | 野は田県京府の出現で、文山学教事

開魯襲撃の形勢

四人を解放して合流

今年こそは・

年年年中年年年年年年年年年年年

母校の名譽にかけて精進する

制覇をめざす奉中

別せしめ、 一、日素體育及び家族の生命見込 人五百四十 くである

で、既常機械の説表るるのと知り下肥敵は八百様に増大せる機構

脱一般の養をうけて二十四日行

たこうシャル

日光直射除レンス の御用意は? の御用意は? のある紫外線除レンス で最も埋型的な、そ で最もである流服を ブンクター

七五四一三電街鎮連連大

京新一天奉 店支







出るが記事を行うないというできょうとは関系になっているというというと

等 切 品 斯) 店 商 村 西 五十二届前间通信 等五三大四(2)周 ES. 種タオル製布ハン

在袋

カチ卸

多綾部商店

政市果福本町四

會敬崇

特約店

紡 製 ベットカバー、テーアルクロス其他 201

模 入 68时 74时

伊藤萬商

來年度見本市に

とう結末をつけるか経取されてとの概念の意味であるが、この配題か今後

根本的改革か

當分は殆んど無影響

後場市況

本年度作柄豫想

平年より一割減少

二十七日、實業部から發表

内地の出品者に

輸入會社を説明

輸聯、奉天ヤマトホテルで

十二日更至現在)は二十七日上最表されることになったが、訓滅と後期されてゐる「新京電话」殿織二年年一回「寵樂郎に於て瀨洲殿産物収穫」本年度假概後想は昨年度より「東京電话」殿織二年第一回「寵樂郎に於て瀨洲殿産物収穫」本年度假概後想は昨年度より

16運

命を判断する人相問答

参透療法の

特れず、衛まず、皮膚の茶部に参

ンや寄生虫に強く無きますから み続つて、内部にかくれたパイキ と佐多芳久博士の

人連卸相場(

奉天の見本市

在任二年十ヶ月

著大な業績を殘す

高田前大連商議會頭

武器に臨まされ通した終系、展示 大きな伝伝だった。正成音氏が七 大きな伝伝だった。正成音氏が七 大きな伝伝だった。正成音氏が七

を出はよの撮影車にされが総都を た、右はアフリカに跳する総糸布 た、右はアフリカに跳する総糸布

本

六〇の既

號

▲お見舞。はがき ・お記のはがき た出來る 起又

輯特大 の大家へ 筝曲 フ井慶公氏神 る世

用自在、困ることがありません。 一供を見違丈夫に る五大特別 Ġ

▲間合せ。はがき ▲間合せ。はがき ▲間のはがき ▲新年、春夏秋冬の用語 ・新り、詫び、帯敷の用語 ・秋、見舞、贈答の用語 ・のパー切の用語 ・手夏秋冬の用語

趣味のはがき 目次

の上文字がトテモ上手に書け、 文字は婦人傳道界の第一人者花繪翠石先生、文章は文壇大家を初め名士名流人の教章になる模範文例一百種、全部はがき大の大きさにベンと毛筆で書いて登表!
まにベンと毛筆で書いて登表!
ないとをで書いて登表!
ないとをできれて登表! つし方まで見えられる重資附録 向きの葉書でも自由自 別 錄

に動するエチオピア画成の酸酸の 相は内外配る多位であるか、それ 日章を下腸されたもの、其他式なベバよりの來電によればイタリー によれば、フランスのラヴアル首 して厳鬱の残骸者として年金附他、東京特電二十六日豊 パリ來電 今回殺妻せられた中、功機携散に

清き心を神ぞ知る

青年將校指導に苦心

真崎大將心境を語る

惟から撤廢

| 上海特置二十六日豊||国民黨中央部帯を設合は二十五日居正を主。

谷參事官語る

めまでに

重要議題

中央全體會議

【東京特電二十六日祭】アデスア

聯盟組織

工國愛國婦人

情勢急轉回か

伊の和協的態度により

スエズ閉鎖論

二國協調により

の排外デモ

陸軍々屬の行常

伊外務次官、英佛ご折衝

望したのでアヴノール順景はいよう、州一日を以て理事館際館の方針を淡忘した。 特別理事會の招集を要さころあつた、一方エテオピアは歌歌に歌して「内國紛争の全面的處理を求むるため特別理事會の招集を要さころあつた、一方エテオピアは歌歌に歌して「内國紛争の全面的處理を求むるため特別理事會の都像を依頼すの繼續を申込ましめることもにスヴィッテ外帯交話は二十五日アヴノール歌歌事際表記・エチオピア政府に對し和協度によりイタリー政府は俄に其の態度を更めアデスアベバ監察を使してエチオピア政府に對し和協度によりイタリー政府は俄に其の態度を更めアデスアベバ監察を使してエチオピア政府に對し和協

政府態度遂に軟化

和協手續繼續に決定

工國並に聯盟に申れ

二十一日に決定

離員の許表を取職の高

現べないであらう

和內閣總辭職

年度に記以來三個月職に於ける「哈鵬濱」然が汪航業職会院へ 松花江湖客輸送茶

昭和製鋼入り 一大人艺

门賞發表

技術者銓衡

『大阪特電二十八日後』大阪 南紫柳殿町の肝いりで昭和駅館ゆ 南紫柳殿町の肝いりで昭和駅館ゆ 「東門駅後十名、中等里夜出三十名」は二十七名中央最楽部小所で 似め書礼順の手で最後の決定をな難断を行ふ客であるが、更に八月

層村蘆谷重常著

年金勳章下賜四十六名

五百七十

六名中

陸軍は今十五日A・田・ホップル 英駐屯軍司令官

查 ○二十七名) 一、 坡田亮、 河田寮、

張新京鐵路局長 に任命した。同大佐は九月

昨日新京發來連

渡制官、三浦陽東局砂舎 町の産業視察のため園田参議 東京電話』南東司や官は東京

新三村 清風 動 ・中村 星瀬 県・高野 辰・ ・中村 星瀬 県 動

俳句の用語と季寄せ 然!全俳壇待望の書俳家の座右に不可缺の書治。大正。昭和年間に於ける俳壇の變遷動向一目 新版俳交讀本 畫の描き方 左青

日本紙和級掃蓋十枚 完善 大製

接着 東京 八三四九八零 東京小石川大塚中町四巻

園春研究會編 郷 松井顕

産業 (関係) (東京) (東r) (

財政安定を期す 藏相、公債政策宣明 しよへ

なき年金

功勞警察官吏中

の眞の模範 流ってに見せたとう

八、木 元 八 八、木 元 八 八、木 元 八 サンベス附近にて年一回 中かれる蒙古人の市

局談發表

(二) 見せたい書──職縁

池八(牟金时)元陞

流三艘に彷彿たるものあ

【新京電話】 新京 財務處新設 新京市政公署に

はいかる丸船客

竹內 尉著價氣體五拾

多田北島書

伯書 美本三百頁 等多數挿入 滚料 • 二二

泰蒂東常四四八六四書 住文東京市舞町區富士見町

社

明徴問題ご公正會

正連勝毅加の離だから聴さい。 正連勝毅加の離だから聴きい。

新算術書の繪を語る

部合に正確である。

行所、東京市小石川區・モナー

つ切れ目下再版中

要目

製品 (鐵橋鐵桁、鐵骨家屋豆油容器、煖爐類本 店 大連市沙河口臺山町本 店 大連市沙河口臺山町本 店 大連市沙河口臺山町

一行、螃鲞管、姜銅、鳝鲞並具黛醬物、酸素乏斯 一汽絲、汽機煙突、各種機杖類、設計、製圖、据 電話二

・・近く決定の模様

影へ遡つて

義務貯金

げ入れる

陸軍の兵備改善案と 在滿兵備の充實計畫 五ヶ年計畫、豫算九億圓

五萬社員と共に

兩理事決定の報について

美味·清潔·齋戲

天ぶられ

支店

は國營

四川石油事業 上法による産金質上債

泉麓 昌

新京市公署の 協會各地案內所及全國驛養店著名書店=79 [海上山] 309

版门和 特職グラフ 日本旅行協會」 原動 は談相 相談は 先 3 5 迅速な 親 **健秀品各種在庫** 切 な 洋

(三)

の論功行賞

不幾分子の住民をも投合せ
ない。何れ直ちに耐化値定を見
勢に至つた原因と、

料金の支

がからない事とない事とないが、若し他 線接を織じ律 が、この際 操はしむる方 組取は懐住宅の多いも

で上京開三日流在一用のため二十七日 の上来月五日までに帰出の参定であるが、理事の複響をへについては既に八田副総裁との限に打合せを了へ大艦の方針を拠してゐるので概要上京中に軽安全であるのでの表示である。

使用開始

大国秀古は時が勝つた。 後に数字が勝つた。 後に数字が勝つた。

美雄とは、大きい静と大きい数

學良碼頭の

议的決定

天津日支實業家會合 銀車、米井、西田南部領事等であ の関係もあつて使用されずしのであるが、市価地に選ぶ 八月一日から 製を無いたが、皮肤の表情の中に たから寒音は最後に失敗して私。

は生きてゐない。

提携恐談會

れての人の中には、秀吉と来職とよく被とがある。だから美術師をよく被をある。だから美術師をよく被 曲の大きな一つかも知れない。

政論明明の折紙付 日まひに、敷着に

要権産職タイレンカクセイ機・第一億大選一四五〇番 9 大連盛進商行

Rases BRAND 御贈答には 大然果汁を… 果精の 純大然果實 ショップ東京の 純大然果實 ショップ 天然果汁を

であり、惨州衛王暦県郡武は極力 を配ざれた王家郡はこの郡四川に を配ざられたが、中央職の形勢 は条件に不服なりとし不敷の形勢 にあり、惨州衛王暦県郡武は後力 に出るやも知れず危機を厳しによつては中央としても武力 火としても武力 0

王家烈不穩 移駐條件に不服

ことだ。数字とは現実を打算するある。神とは美しきものを夢みる

る。神とは美しきものを夢みるこの地上には、詩歌と歌字とが

家康の數字

秀吉の詩と JOY

of the laste 大阪田麩·味噌 日本各 海の · 四 ○ •110 0 名 産・珍 小 田原梅 田

界各國酒 11.110 1.110 •大0 (7)

厚司作業服べ来

多綾 部 商

心を挑けわばならの事 指定を終った

6

D

大藏、外務兩當局態度

内地財界の關心

各理事の擔當

協和會創立三周年記念式。門書記以

の動物・一部間壁の影響であらう

ので、内地財界

見てゐる。

東京七八六七十八八七十二河田二

院長 鳴尾 直人

多くを語らず

済生医院

病

滿洲求人相談所 大阪中央職業紹介所に新設

現地にも駐在機關

金 四九二圓一七錢 四九二圓九三錢

日本屋洋服店郷二十周年記念 大賣出し日々賣上高 大賣出し日々賣上高 ・ 四九二面九三鎌 ・ 四九二面九三鎌

卅日の市會 四市・を招集左応事項を上程のは三十日午後一時から無八 こ云ひ内容と云ひ、傳紀と

日本人と共通監の多い獨乙人、

新代表 五二七 私被重要101、101. 能對二種財众配於問題等101、101. 是一五二七 私被重要101、101.

萬人參集

廣軌線慰安列車

羊毛の生産を計畫

朝陽に國立緬羊改良場

時代は遷る三十年の回顧(電気上から)エリ型機関車(立てるは野上政治氏)木製の車輪、医狭軌道兩用の車輪

走る五彩の汽車

東清鐵道創業時代を語る

珍品の數々を陳列

| 女へ兄から尊敬の的こなつ

みんな馬占山が惡いの

をついた後へクボクで壁に磨け いた後へクボクで壁に磨け になり、からぬった物が のれるといかにも動かはしげに高 東立武治戦に新建

*儒林外史

「これはどれも粒焼りの名文だ。

流行語を地で行く北浦哀話

のを見掛けてから跳れを配して臓のを出て触る場に起き、揺に乗るでは、実験から又後を送つて高速を取らせ、実験がられて高速を取りません。

言戒すべき身體の総



全満廿五ヶ所の 八森林を集團伐採 匪賊の

花嫁のつもりで

大變歡迎さ

泥海と化す

連日の雨で河川氾濫

との繁殖を飾ると共にこれを地方全面的に及ぼし指導要職の上派次耽良の方針に高全を期して票ら飼育準備中である。近く峻寺七百頭を輸入し八月より第一に高全を期して票ら飼育準備中である。近く峻寺七百頭を輸入し八月より第一日二十五頭を原人二名の駿夏、牧夫十二名の総秀良を派遣、米國より極端寺二百二十五頭を原人二名の駿夏、牧夫十二名の総秀良を派遣、米國より極端寺二百二十五頭を

◆…しかし下にも置かない

と他に数を投げた。
と他に数を投げた。
と他に数を投げた。
と他に数を投げた。
と他に数を投げた。
と他に数を投げた。
と他に数を投げた。
とのがしたがあられて一般が多数にのです。
とのがしたがあった。と、他がからは「一般があらな」できら」と同答が言つた。
「の表人なら寒せてやつてもがい」と同答が言つた。
「の老人なら寒せてやつてもがい」と同答が言つた。
「の老人なら寒せてやつてもがい」と同答が言つた。
「の老人なら寒せてやつてもがい。この話を難いてもた匿越人は、他のな人なら寒せてやつてもがい。この話を難いてもた匿越人は、他のないと思ってもそれが出来ぬまる。
「後老人の言ひつけた、教人、東 歌したいと思つてもそれが出来ぬまる。 」 座一髪の船が漕がれて来たの船に乗換へねばならなかつの船に乗換へればならなかつ

疲れ易くて根氣がない 次の様な變調を自覺された場合は直ぐに適當な手當が必要です 怒りつほい

満洲側で肩替り

近く正式調印の運び

加奈陀麥粉に代り

北満粉が内地へ進出か

報復關稅設定後俄に活集立つ

蘭銀、二十五日も續行

滿温

高融の

米白薦推商穀禾連大 味の変らぬお米

廿有余年の

所米精丸角川仁

昨年同期より

荷動き稍々減少

六月末の哈市船舶貨客

細目は各社で今後協定

ATT TO THE TOTAL TOTAL

多人軍位加大 八八四二人五 八八四二人五 八八四二人五 七四六十二 七四六二 七四六 九 九二二八五 七四六 九 九 大二大三大三大三大三大三大三大三大

満洲特許法の 施行を控へ準備

滿洲辨理士會員

本未 大連整島 大連整島

二回 三國 8₆25 7₆00 3₆35 7₆10 4₆35 8₆10 5₆50 9₆25 終演 10₆30

貨物留置日數

北満沿線の

吾妻驛の調査完了

#津灣頭を照す

日記工以來幸びにも紀天氣に思ま「式燈籠は野出度壁工し大草島のNaの電車の服養工作は四月二十一十日に小草島、松島、鶴島のアメの電車の影響工作は四月二十一十日に小草島、松島、鶴島のアメリー・大草島のMa

北鮮航路の道しるべ

しい燈臺



新京教育會改組

湯茶 無料接待、渡船十錢

滿洲日報社

讀者優待券(一处)

後援 滿洲日報社

H

新規則三新陣容成る

改正具體案成る

九月一日から寅施

會寧に、福の神、

一千勞働軍の進撃に

も色街の好景氣

神保畵伯個展

ひつかけられた腹癒せに

どんだ飛ばつちら

滿人の飲食店に

8

ピスガー

ル出現

メートルの工事人札を行つ

* 4 0 年 商

害ハ何時モ豫告ヲ致シ マセン

消防組の御新設・消防具の御購入等には是非共一度相談部を御利用下さい

左下丹 演主郎次傳內河大 子みふ路山

日本橋通二〇 (伊密商店裏) → 電話五六八九番 →

一二通曰朝京新番五九七五話電

(新度)電話四九六六署(始層書)電話三二〇七署

既に準備測量に着手

愛護村の警備演習

勇躍・七百餘名参加

早くも申込百名突破

『新東』 あじあそこのけの《激劇》 簡明込に送しこの有様でいくと定然/ が京が取けいよく (二十八日) 製物を膨かに軽過して) ない中之の素明らしい申込に接して、20所目に殴つて一般市民かならの状態です。私の方も出い、五の所目に殴つて一般市民かならの状態です。私の方も出い、五の所目に殴つて一般市民かなるだけサービスに 養す心算の あるだけサービスに 養す心算の あるだけサービスに 養す心算の あるだけサービスに 養す心算の あるだけサービスに 養す心算

要へれば」等との無数が も、駅近好低の思測が も、駅近好低の思測が

噴火口に立つ觀

安眠すべきでない

凱旋を前に蒲中將談

■ 野に撃立な像をあげれば、テテハ 高野に撃立な像をあげれば、テテハ 高野に撃立な像をあげれば、テテハ 高野に撃っている。 たこと はいまして いっぱい から はいっぱい から はいい から はい から はいい から はい から はいい から はい はいい から はいい から はいい から はいい から はいい から はいい から はい はいい から はい はいい か

新京日本橋通七八番地



支那人にしちや

うたつたり、

が除ってるる。動物のやうなやは、映影脈での歌一日、大陸で応。略

かるに、北の呼び方は「大連」 のである。

七月廿二日

住木斯行き船中での出來事

ための 北瀬旅行記 の

七月十七日

ませんやおみあしのサンダルは有名なタヒチ島の土人の靴からヒントを御ました。

滿日婦

、大連、呼稱問題

が戦かなには粉末リンゴの方が用ンゴに比し有一大無において年長見には生リンゴ

ーダイレンミ呼ぶのが正しいー

は、この難しは大分前から手に入れて居つたのであるが、其の原本を見てからが見を放表したいものと差徴へて居たのであるが、其の間上で関したのであるが、 一世し一難したのである。 これは石版解で西司が聞から減 にれば石版解で西司が聞から減 とれば石版解で西司が聞から減

海濱のア・ラ・モード

今回 は機に砂む都のため

セロファン製の海水着

本のにの歌! 参のため市内戦明、参生、弥然の のご歌見を解つてみました。 を振られ 各部女、女子融影、女子戦後の五 各校の現状 を関係化 各級の方針、現代その他について とする内拠。 で問題化 各級の方針、現代その他について とする内拠。 では感 平田 (神田) 今西 (憲生) 関内 とする内拠。 (羽衣) 上村 (女子西美) 島田 (二) 参生高女 右に同じて とする内拠。

各學校長の意見を聴く

いまさら禁止の必要はない

問題化した女學生

断髪。の再檢討



い。 上級生に對しては幸福制的 であます

大局からみて 弊害はな

善導の必要はあらう

子供の下痢症で

激なり、影響への悪帯心を失はし

郷へは 郷る服作業といは 受ける如く歌観した動機なり、は、現在の學校書間の方針かられるぞうな場合は一部の婚人に見一きでせら。禁止か否かにつ

満日婦人團が

水泳講習會

本は呼吸器、脚乳、心臓、中耳炎 無のある人は側端部下さい。

世九日から黑石礁で

でわけながら、歌皮をき だだから洗完姿の酸は、時々 醫學的にみた

文

樂雜處

来満一行を迎へて-

附和七年度にリンゴ機磁を行った 派別無高五十三名の死亡率は他か に七・五%で数に十歳未青者二十 三名の死亡率は一三・○%であり ました。得便伝が対域して有機便 となる違の日数はリンゴ健健を となる違の日数はリンゴ健康を となる違の日数はリンゴ健康を となる違の日数はリンゴ健康を

す の態のみ無いで 聴つてるるやうな

リンゴを大根おろしにかけ

日100-1000瓦多

ったものはパンの中に対形

ただ黒紫色に春色しただけですから色が一様について

いつて買つてゐるパンの

の粒を配めることができま

0

簡単 にはいきますまい、 断髪の可否 簡單にはいかね

服があります、病験者の歌起 ので、これにも/殿さ/と太さ ので、これにも/殿さ/と太さ

は、ことすらしばくへある。同じく大にが、神太夫の郷土は院本の郷としてである。獣四の郷土は、どと婆にもくるひのない四数目の快度を持てつ総土である。人類は近七職といてつ総土である。人類は近七職といいる職を待つ、武曹の使ふ徳土である。人類は近七職といい。

湯、茶を、販ニ日から牛乳、除薬 ゴ食のみ與へ、豚ニ日はこれに ・ 一日はリン

子供を

IJ

は濃く、或は淡くして使利にして小児の好み

| 本のではオール日本水液の | なは髪加者は左の構成を | 本のではオール日本水液の | なは髪加者は左の構成を | 水泳者、側子、タオルマ

要店にも設へてあります。二 かき 増子、タオル、下駄(浴

がは、八人間、東京、海谷 神道の友(八人間)東京、海谷 神堂學「初等音楽書郎」(第四 神堂學「初等音楽書郎」(第四

進める十五種の遺方

真慾を

大規作町四一宮海道県

ンゴ食療法

新刊紹介

160

なにど生活をきなに

が生れ

の費用肥寒は、スグ役に立つ

出来築え、婦人はが き文集の大財銀つき

味肥寒は明るく上品で家中

の一篇を一寸拾り数

スープ等を出来るだけ戦へて仮性 に仮性の迅速な対戦は撃み帯ない に仮性の迅速な対戦は撃み帯ない に仮性の迅速な対戦は撃み帯ない に仮性の迅速な対戦は撃み帯ない でありますけれ共比較的取く有 でありますけれ共比較的取く有 がでありますけれ共比較的取り でありますけれ共比較的取り を がり

デッとして坐つてるてもジター される他々の皮膚が、そして健や幅ま か浅で、不息難な性端るのです。 が浅で、不息難な性端るのです。 からこれさ、知つてるれば安心してま で、これさ、知つてるれば安心してま

る家庭治療法

した母の體験

皮膚病む

を これ等の 問題について近代女性を 名が置から製作におれるか……どうしたと 名が置から製作にお操やに無遺産と で飛餅した珍らしい寒暖食で、こに飛餅した珍らしい寒暖食で、こに飛餅した珍らしい寒暖食で、こ

の運命代

ひ跡き横に懸はれます。

三、大連療病院



所 大妻の 大妻の 大妻の

明

医全

た治した経験

ムクミ

0



點歸 福田糸店 機器だりが四つ経

印金

We was an

檀上商店

等·黄檀岛 等·附屬·岛

記載で 立派に禁して なる私の報告 家庭判の 女手の 生殖器障碍 病 鷹 病 精神縣 鹿兒島等

製造 元 大阪市東區道修町 談武田長兵衛商店



白 (健 | 濃 | 肌 | 康 | 肌 | 色 | 色 | 色 | 色

35-811(0)

汗にくづれぬ自粉です どなた様の楽肌にも しつくり合って 陽やけ除けにも一番です

化粧下いらずに

お手軽に、

八色の 完全な 爽かな 凉しい 化粧学え 化粧保ち ツキ味 ウテナノ

東京本郷

豪快なる人ごなり

り贈る父が摩出された、早和田を出て山かにめたが原白くなが原白くなが原白くなが原白くながに渡った時、資産がして渡った時、資産を持て、事実に家を着ます。事実に家を着れる云つて来た

匪賊團に襲撃された奈曼旗公署(監験)

知らい同夫人

先づ奉中

青島日中の

一日から

山森参事官は

日午前十年常他 の少数を以て許多城を眺める。

「大日最間通」二十六日 では一方に対人を散題。

「歌を称るに空、修者を出しつゝあり、海軍は日本 「一部工作」が変更にない。

「新京二十六日最間通」二十六日 では対人を散題。
「歌歌は歌歌に抵抗し双方を動の死」
「新京二十六日最間通」二十六日 では対しているまい。
「一部十年常他」の少数を以て許多城を集の戦攻撃。
かり送つたがまた庭いてるまい。

劍道の名手

北るもので、昭和二年三月和殿博士今村明何氏の個供

匪團大討伐開始

奈曼城奪還に努む

満洲國警備隊の勇戰

(白曜土)

逃亡患者二名逐に

發生地は



地震の教材、沈着、

教科書に出る糸井重幸君の車



走幅跳--走高飛

米。芬。日

―四百米リレー プ市の前哨戦

日一算 間け

催ふ 奉天中學對青島日本中塵 後生援 選會



行の阻害者ごして

評判 鈴屋のド レスと帽子!!

地震三十六通山大 九五八二十二話灣 子载村中·主店

京都帝大 服裝革新同盟指定 戶田正三先生御考案 ヤ " キャラコ ¥ 1,00 ¥ 1,20 白ブロート 単半 1,50並¥ 1,70 天三四十五章 番三二〇一・二話電

に發見. 農安附近

来し二十五日新京書がら連殿を開生の報に握した新京では大恋院を 来し二十五日新京書がら連殿を開せ

建國功

労金で

聖旨

嚴重檢疫

野熱極めて多く盛動であつめての関係大概を含べき大動の削哨 り、殊にフインランドに於めての関係大概を動であつ

て」にあつまる

本社主催寫眞展の盛況

武が事業受験の現代を

天長地

外團の

名檢學

本古の全貌は

大

開

襟

醫學博士

京

窓内府大臣の美譽

教育普及兩會へ寄附

世界一-本場の味 目前

方山川田湯 全店を DILLING.

いっていますが、中国というというというと

取新型カメラ略入荷 一九三五年度のカメラ界の人気を 占する最新カメラはつ

935年型 SHUTTER 1、焼付は他に見られない艶出し仕上を致ます

を示して居る唯一のカメラであります
新時代フオト・テクニックの一大進步 アルス寫眞講座及寫眞書籍新入荷

す変は不暇で作らしく、変に入野代の日は大脈にくれて、悪人

になって、登場をやくのでした。火はたちんたやうに感じた。火はたち

を立ていました。 をした。そして同様に贈の具合を をとくなりまして、早期明二 では、そして同様に贈の具合を をとくなりまして、早期明二

が順よりおいしいものでした。 手首など自分性ら離く程スピードで細つて来るし、中野ンと、ある見無客が数へて乗れたのである見無客が数へて乗れたのである見無客が数へて乗れたので

とつめよって、

の活動に似て、休む間は一種

八十四の大概は、西ケ郷の砂郷

と概十郎の戯的もかはつた。 「四之さん、誠太ならさつき見た。 ぜ、見かけたぜ」

肺尖カタルが輕快し

以前よりも健康體に

おましたが、それを二杯も食べたから、髪を食べよどて赤て臭だから、髪を食べよどて赤て臭

山田忠造

あたっい

いい無味だ、ようちゃん」にみんなは……」

をが、他の女が土はこりを見て、だが、他の女が土はこりを見て、だが、他の女が土はこりを見て、だが、他の女が土はこりを見て、だが、他の女が土はこりを見て、ないであけて乗り襲けてゐたから、ないなあけて乗り襲けてゐたから、ないなんだのである。

B

の君い女性の『の中に吸ひ込まれ りなって悪よく、空中高 でできあげられた。そして悪よく、空中高 でできるげられた。そして悪よく、 できあげられた。そして悪よく、

(156)

行き過ぎてから、あわてゝ振向く と、 「さつきからあんなに呼んでゐる のに……」

「お」……」
れてしまつたが、脚分さがした。
人族にもまれて、ちりん(にはぐ人族にもまれて、ちりん(にはぐ た。

と日之貼る、その有機を睨んで

では、他のである。 天寒地栗の死に滅したのである。 天寒地栗の死に減したのである。 天寒地栗の

冷たくあざけり美なのであつた。 たぜ、何歯にゐるんだ、ねえ何慮の心理で、日之助も情悪をこめて くた/~になつて今まで探しおい、鬼般戦感の尖つた、その頃の町 れてしまつたが、鬼分さがした。

は、紫外線と呼ぶなるべき殺人でいや彩顔光線があって、こいつにいや彩顔光線があって、こいつにいいを表すれると、流石の我職もひと 我輩の最も恐れる

たまりもなくのびてしまふ。 他し幸ひにも、我歌の吐き出されたのは、日のさゝ自動歌の土の上であつた。吐いた寒は下脈を以て、熊々我歌の上を膝飾つて行ったが、その位でへこたれる我々でたが、その位でへこたれる我々ではない。我歌の變つてゐる土が数はない。我歌の變つてゐる土が数はい勢ひで接觸して來た自動車をじい勢ひで接觸して來た自動車をじい勢ひで接觸して來た自動車を

はない。歴とした僧の版の家柄な 同じ蔵といっても、我々は間り

敵の兵站線を」

攪亂する結核菌毒

増加する語りか、

王職の威容を追憶して、孤城家氏の鬼職はかつて職大を誇つた、総核

の中に、我々を封織してしまはふとい。策戦である。勿論わが取けた。 とい。策戦である。勿論わが取けた。 所職に新しい結核組織を作るためには、必ず十分な受養がこれにはなってはならぬ。我軍は に伴はなくてはならぬ。我軍は

進め

マクニシ

で健康へ

シ、

で立てなほせ

夜間のあのは頭にのない、



新集横溢!

庭醫 結核声である 强大を誇つた我輩の王國は-

派頭の当該市の中疾路 いえてくき大・美富齢 物壊鉄や菌舗の値はの 直接結ぶのな長線で指

文美んだのである。

極の、肺臓の征服は近きにありと

改軍はこの康に乗じて益々孫殿を

大連支部

がけない情勢の變化が起って、熱い所がこうに、敵陣養内に、思ひ

めたといふのは、歌の兵站線に

急に暗影がさし

る結果として、呼騰の機能が超級し、戦略は軽だしくなって、酸の攻撃がは著るしく不活躍となる。

また消化・食息の中機を攻撃す

どうして衰亡に赴いたが

有名なるヘーフエ厳軍から成るも なっと戦線に現れ、軽の変数は脱ったと戦線に現れ、軽の大気をは、水から の大気をは、水から 核菌も同様な響菌だらう位に思はい人々の間では、酸といふから記 ので、あまりこの方面に知識のな 僧報がはいつた事である。 歌として、送られついあるといる 素(わかると)の大集團が、

要な間違ひだ。

売荒してるて、我人の張敬たる日 我々とは比較にならの程法さく。 のだ。ヘーフェ酸の方は、剛然も つも七つ選其なられ、数十個の

が対する酸素を消したり、我がりが対する酸素を消したり、我がりが対する酸素を消したり、我がり まで用意してゐるのだ。 の攻撃を受けて萎縮してゐる背脈

だとして活気を至した内臓に膨られ に、力を盛り返した内臓に膨られ に、力を盛り返した内臓に膨られ 食機を供給して、酸の銃後の気を たのである。今中 四面を歌なら を旺にする。いやはや尼介ない 舞する。アミノ酸、ゲリ

ました。 (中略) ました。 (中略) ました。 (中略) ました。 (中略) を 優つても平気でした。 (中略) で、子の俊二十中紀で、子の俊二十中紀で、子常食 であるし、純け知らぬ間になくなってゐました。その後一ケ門では無理をせず形意しつ、一般歌して また。 を の後 き速版して は無理をせず形意しつ、一般歌して またでは、 意理を も 子五頭以上の | 野蔵一七〇〇巻| から世五日分| 順六十銭、八十三日分五賦の、| 東京一七〇〇巻| から世五日分| して、対果難はしき類似品をお薦 大門内閣・策楽と育児の館(撮影 の感をしみじみと味はつてゐる。

高砂屋樂器店 \$ 28 HEAD \$ 450 \$ 150

運

वि

本運動具店

六四六



クラブ淡白クリ 及化粧に白粉くづれのない クラブ

クラブベーラムの

効果的な魅力です

美しい髪!

クラブペーラム 50セン